

この日の取材の様子はこちらから  
 YouTubeチャンネル  
 森林環境情報誌 もりりん



津野町立葉山小学校  
 住所／高岡郡津野町姫野々503-1  
 TEL／0889-55-2020



長男が持ち帰った机には真ん中にビシッとキズが刻まれていました(笑)。

市川さんのお子さんも卒業生でした。



(左) 合田校長先生と(右) 市川さん



机になる前は、どんな木だったんだろう？

上級生になっただなって思って、ワクワクした。

自分だけの机だから、ずっと大事にしたいな。

4年生の一番最初の日、教室に入ったから、木のいい香りがして、すごく嬉しくなった。



木の贈り物  
 ずっと一緒に、大切に



4年生への贈り物

高知県の中西部に位置する津野町は四国山地に抱えられた地域。約90%が山林で占められており、地元の木を使おうという動きも盛んです。

津野町の小中学校には、木がふんだんに使われています。教室に並ぶ机と椅子は、毎年4月、4年生になった子どもたちにプレゼントされるもの。すべて、高知県産のヒノキでできています。この取り組みは、平成24年からスタート。高知県「木の香るまちづくり推進事業」を活用しています。

大切な思いを込めて

机と椅子を製作しているのは津野町の業者さんです。「父の代から関わらせてもらっていますが、当初は5つあった業者も今は3つです。でも職人不足ですが、なんとか津野町の職人でやりたいという思いがあって。全部で30〜40台ほどを分担して、葉山小学校、精華小学校、中央小学校の4年生に、毎年提供させてもらっています。子どもたちに喜んでもらえることが何よりうれしいです。」と話す有限会社市川工建の市川智章さん。この贈り物の向こうには、「この町や子どもたちを大切に思う人たちの存在がありました。」

マイデスク、マイチェア

木で作られた自分の机と椅子を前にした子ども達は、みんな誇らしげ。それぞれの机と椅子は、傷がついたり汚れたり、時には落書きされたりしながら、中学校を卒業するまでの時間を子どもたちと共に過ごします。校長の合田浩俊先生は、「毎年、6年生の机と椅子は、卒業式の後には中学校へ運び出されます。その様子を見送りながら、子どもたちは中学生になることを実感しているようです。4年生になつてからずっと学校生活を一緒に過ごした机と椅子だから、自分の一部のように感じているんじゃないかな。」と話します。

中学校を卒業する時、自分が使った机と椅子を持ち帰ることが出来ます。卒業生の自宅に置かれ、日々そばにある木の机と椅子。津野町で育った子どもたちが大人になった時、それらを見るたびに学校で過ごした時間を懐かしく思い出しているんじゃないかな。